

## 事務事業評価における総括

部 局 名	環境部	記入責任者	野崎 栄
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>環境部 4 課では「災害応急対策活動」「庁内共通事務」「部内共通業務」及び保健所へ移管した事業を除き、83 事業の評価を実施しました。その結果、S 評価 61 事業、A 評価 6 事業、B 評価 2 事業、C 評価 8 事業、Z 評価 5 事業、実績なし 1 事業でした。</p> <p>このうち業務計画に位置づけた事業では、29 事業のうち 23 事業で目標を達成し、S 評価となったことは部内各課において事業の目的を認識しながら取り組みを進めた結果であると考えています。</p> <p>以上のことから、平成 28 年度の事業については概ね順調に取り組みを進めることができたと評価しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>C 評価であった資源循環課の「資源化促進事業」については、目標値に達しなかった理由として、剪定枝の資源化の導入を見送ったこと、市民の間にごみの分別が十分に浸透していないことが挙げられます。ごみの分別については、資源化が十分に行われていない紙ごみの分別に的を絞った啓発を充実させていきます。</p> <p>また、環境政策課の「ちがさきエコネット事業の推進」では、サイト内での既存のイベントに目新しさがなかったことが新規登録者の伸び悩みの原因と考えられます。</p> <p>このため、新たな取り組みとしてエコ事業者による「省エネ活動展」を 2 月から 3 月にかけて実施した結果、予想を上回る 1,200 人にご来場いただくことができたことから、今後の成果が見込めるものと考えています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>成果が上がった事業については、C3 成長加速化方針に基づき事業の内容や手法の見直しを進めながら、引き続き取り組みを進めていきます。</p> <p>一方で、成果は見込めるものの目標値を達成できなかった事業については、市民、事業者に自主的に取り組んでいただくための啓発が主であり、行政の努力だけでは成果が出ない特徴があります。</p> <p>こうした事業への対応について、新たな啓発の実施や対象を絞った重点的な周知など、効果的な手法の検討を適宜行いながら地道に実施していくことで政策・施策目標の達成を目指していきます。</p>			